

K-635

山形県長井市埋蔵文化財調査報告書第25集

# 市内遺跡発掘調査報告書(13)

みや 宮 遺 跡 の 調 査

もん ご やま  
問 答 山 遺 跡 の 調 査

ざ すの わき  
座 須 脇 遺 跡 の 調 査

他

2005年

長井市教育委員会





# 市内遺跡発掘調査報告書(13)

宮 遺 跡 の 調 査

問 答 山 遺 跡 の 調 査

座 須 臂 遺 跡 の 調 査

他

平成 17 年 3 月

長井市教育委員会



## 序

昨年の7月から9月にかけて行われた問答山遺跡の発掘調査で、環状列石を伴う縄文時代中期のムラの跡が発見され貴重な成果を得ることができました。長者屋敷遺跡に勝るとも劣らない縄文時代の遺跡が西山山ろくから発見され、長井の古代史に新たな一頁が加えられたことに大きな悦びを感じているところであります。

さて、今年度の市内遺跡発掘調査事業による調査件数は12件で、例年に比べるとやや多い数となっています。内訳を見ると開発事業に伴う調査が半数の6件ですが、実際に寄せられた埋蔵文化財の有無に関する問い合わせ件数は約50件を数え、そのほとんどが民間開発によるものです。この数字は本市における埋蔵文化財保護行政に対し、ご理解をいただいた結果と受けとめております。しかし、遺跡の保護と一口で言っても行政側の施策だけで推し進められるものではなく、開発に携わる方々のご理解とご協力をなくしては成り立たない事業と考えております。

開発と遺跡保護の調整はこれからも続きますが、開発事業者の方々にご理解をいただきながら、本事業の継続に努めてまいる所存でございます。

最後になりましたが、本調査にご理解とご協力をいただいた方々、また、厳しい天候にもかかわらず調査に参加くださいました皆様に心より感謝を申し上げます。

平成17年3月

長井市教育委員会

教育長 大滝 昌利



## 例　　言

1. 本報告書は、長井市教育委員会が国庫補助を受けて実施した、平成16年度の開発事業における調整並びに遺跡台帳整備に関する市内遺跡発掘調査の報告書である。
2. 事業期間は平成16年4月1日から平成17年3月31日までである。
3. 調査体制は次のとおりである。

調査員 岩崎義信（長井市教育委員会 文化生涯学習課 補佐）

調査参加者 浅野義一、安部國藏、梅津良雄、小笠原栄一、上村欣三郎、川崎 力、

桑原喜一、小林弘幸、莊子 昭、鈴木利顕、高橋敦子、高橋勝太郎、

高橋信一、平 畠、玉置吉次、中嶋 涼、樋口有美、

事務局事務局長 村上和雄（長井市教育委員会 文化生涯学習課 文化主幹）

事務局長補佐 岩崎義信（長井市教育委員会 文化生涯学習課 補佐）

事務局員 近 啓美（長井市教育委員会 文化生涯学習課 主査）

資料整理 高橋敦子、樋口有美

4. 本調査を実施するにあたり、次の方々にご協力をいただいた。ここに記して感謝申し上げます。

（順不同、敬称略）

山形県教育庁社会教育課文化財保護課、渡部勝美、渡部昭吉、アサヒ電子（株）、世田谷工業（株）、

高橋政男、勝見芳美、飯沢 茂、片桐且二、菊地 茂、小松慎一、鈴木昭次、鈴木保司、

平 朋也、山口一郎、横山悦雄、渡部富雄、寒河江健次、中川喜代子、平井良太郎、齊藤綾子、山口珠子

また、報告書を作成するにあたり次の方々からご指導・ご助言を賜った。

（財）山形県埋蔵文化財センター、菅原哲文、高桑 登、山口博之

5. 遺物の縮尺は土器拓影図1/3、石器実測図1/2とし、挿図・付図はそれぞれスケールで示した。

6. 本書の編集・執筆・写真撮影は岩崎義信が担当し、拓本、挿図、図版の作成は樋口有美、高橋敦子の補助を得た。

## 目 次

|                       |    |
|-----------------------|----|
| I 調査に至るまで .....       | 1  |
| 1. 調査の目的 .....        | 1  |
| 2. 調査の方法 .....        | 1  |
| 3. 調査の経過 .....        | 1  |
| II 開発事業に係る調査 .....    | 4  |
| 1. 久保遺跡 .....         | 4  |
| 2. 南台遺跡 .....         | 5  |
| 3. 宮遺跡 .....          | 6  |
| 4. 源徳原館 .....         | 13 |
| 5. 元八幡遺跡 .....        | 14 |
| 6. 金地ヶ原遺跡 .....       | 15 |
| III 遺跡台帳整備に係る調査 ..... | 18 |
| 7. 谷地寺遺跡 .....        | 18 |
| 8. 的場遺跡 .....         | 19 |
| 9. 長者原北遺跡 .....       | 22 |
| 10. 清六清水遺跡 .....      | 24 |
| 11. 問答山遺跡 .....       | 27 |
| 12. 座須脇遺跡 .....       | 31 |
| 報告書抄録 .....           | 卷末 |

## 挿図目次

|                          |    |
|--------------------------|----|
| 第1図 調査箇所位置図 .....        | 3  |
| 第2図 久保遺跡概要図 .....        | 4  |
| 第3図 南台遺跡概要図 .....        | 5  |
| 第4図 宮遺跡概要図 .....         | 6  |
| 第5図 宮遺跡出土土器 .....        | 9  |
| 第6図 宮遺跡出土石器 .....        | 10 |
| 第7図 源徳原館概要図 .....        | 13 |
| 第8図 元八幡遺跡概要図 .....       | 14 |
| 第9図 金地ヶ原遺跡概要図 .....      | 15 |
| 第10図 金地ヶ原遺跡トレンチ概要図 ..... | 16 |
| 第11図 谷地寺遺跡概要図 .....      | 18 |
| 第12図 的場遺跡概要図 .....       | 20 |

|                         |    |
|-------------------------|----|
| 第13図 長者原北遺跡概要図 .....    | 22 |
| 第14図 清六清水遺跡概要図 .....    | 24 |
| 第15図 清六清水遺跡出土遺物 .....   | 25 |
| 第16図 問答山遺跡調査概要図 .....   | 28 |
| 第17図 問答山遺跡トレンチ概要図 ..... | 29 |
| 第18図 問答山遺跡出土石器 .....    | 30 |
| 第19図 座須脇遺跡概要図 .....     | 31 |
| 第20図 座須脇遺跡トレンチ概要図 ..... | 32 |
| 第21図 座須脇遺跡出土土器 .....    | 33 |
| 第22図 座須脇遺跡出土石器 .....    | 34 |

## 表 目 次

|                 |   |
|-----------------|---|
| 第1表 調査工程表 ..... | 2 |
|-----------------|---|

## 図版目次

|                      |    |
|----------------------|----|
| 図1版 久保遺跡 .....       | 4  |
| 図2版 南台遺跡 .....       | 5  |
| 図3版 宮遺跡 .....        | 7  |
| 図4版 宮遺跡出土土器 .....    | 11 |
| 図5版 宮遺跡出土石器 .....    | 12 |
| 図6版 源徳原館 .....       | 13 |
| 図7版 元八幡遺跡 .....      | 14 |
| 図8版 金地ヶ原遺跡 .....     | 17 |
| 図9版 谷地寺遺跡 .....      | 18 |
| 図10版 谷地寺遺跡採集遺物 ..... | 19 |
| 図11版 的場遺跡 .....      | 21 |
| 図12版 長者原北遺跡 .....    | 23 |
| 図13版 清六清水遺跡 .....    | 26 |
| 図14版 問答山遺跡(1) .....  | 27 |
| 図15版 問答山遺跡(2) .....  | 30 |
| 図16版 座須脇遺跡(1) .....  | 35 |
| 図17版 座須脇遺跡(2) .....  | 36 |
| 図18版 座須脇遺跡出土土器 ..... | 37 |
| 図19版 座須脇遺跡出土遺物 ..... | 38 |

# I 調査に至るまで

## 1. 調査の目的

本市では昭和57年から行った遺跡詳細分布調査を発端にし、市内全域にわたる分布調査を実施してきたところ現在まで216箇所の遺跡を把握しているが、近年時代の要求に伴い、遺跡が存在する地域にも開発がおよぶようになってきた。本調査は開発事業との調整を図り、事前に遺跡の保護にあたることを目的としたものである。対象となる開発事業の内容は本市が行う公共事業と、宅地造成をはじめとする民間開発事業が主体となる。

また、周知の遺跡はそのほとんどが表面踏査で確認したものである。そのため遺跡の範囲・性格・年代等を明らかにする目的から一部試掘調査を実施し、記録として保存にあたり遺跡台帳の整備に努めた。

## 2. 調査の方法

調査は内容・目的から次の方法で実施している。

### (1) 現地踏査

遺跡の周辺が開発範囲に含まれる場合や、現在遺跡として登録されていない地域でも、開発事業予定区域が広範囲におよぶ場合には現地踏査、聞き取り調査を行い遺跡の有無の確認にあたり、開発事業と遺跡保護の調整にあたる。

### (2) 試掘調査

周知の遺跡が開発事業予定区域に含まれる場合や、遺跡周辺に開発がおよぶ恐れがあるときには坪掘りやトレーンチ掘りを行い、遺構・遺物の広がりを確認し、さらに遺構検出面までの深さを把握し開発事業と遺跡保護の調整を図る。

また、遺跡台帳整備の目的から、これまで表面踏査による推定遺跡範囲に坪掘りやトレーンチ掘り、小規模な発掘調査を行い遺構・遺物の検出にあたり遺跡の範囲・性格・年代等を明らかにし、遺跡台帳の補筆にある。

### (3) 立会調査

開発事業において遺跡におよぼす影響が軽微な場合は、工事施工に立ち会って調査を行う。発見された遺構・遺物は記録保存を行う。

## 3. 調査の経過

長井市教育委員会では、これまで行ってきた分布調査をもとに遺跡地図を作成しており、この地図を開発を担当する関係機関に配布し、今後計画される各種開発事業にさきがけて埋蔵文化財に関するヒアリングを行い、必要に応じ上記の調査を実施した。また、民間開発についても隨時受付を行っており、開発に係る事前調査依頼の受け入れ体制を組織し、同様の調査を行った。

その結果、本年度は5遺跡の調査を実施した。内訳は民間開発に係る調査が4件、遺跡台帳整備に関する調査が1件で、公共事業に係わる調査の依頼は該当するものがなかった。民間開発が増えつつあるのが現状である。

なお、現地調査の工程と、ヒアリングに係る調査の内容は次のとおりである。

## 調査工程表

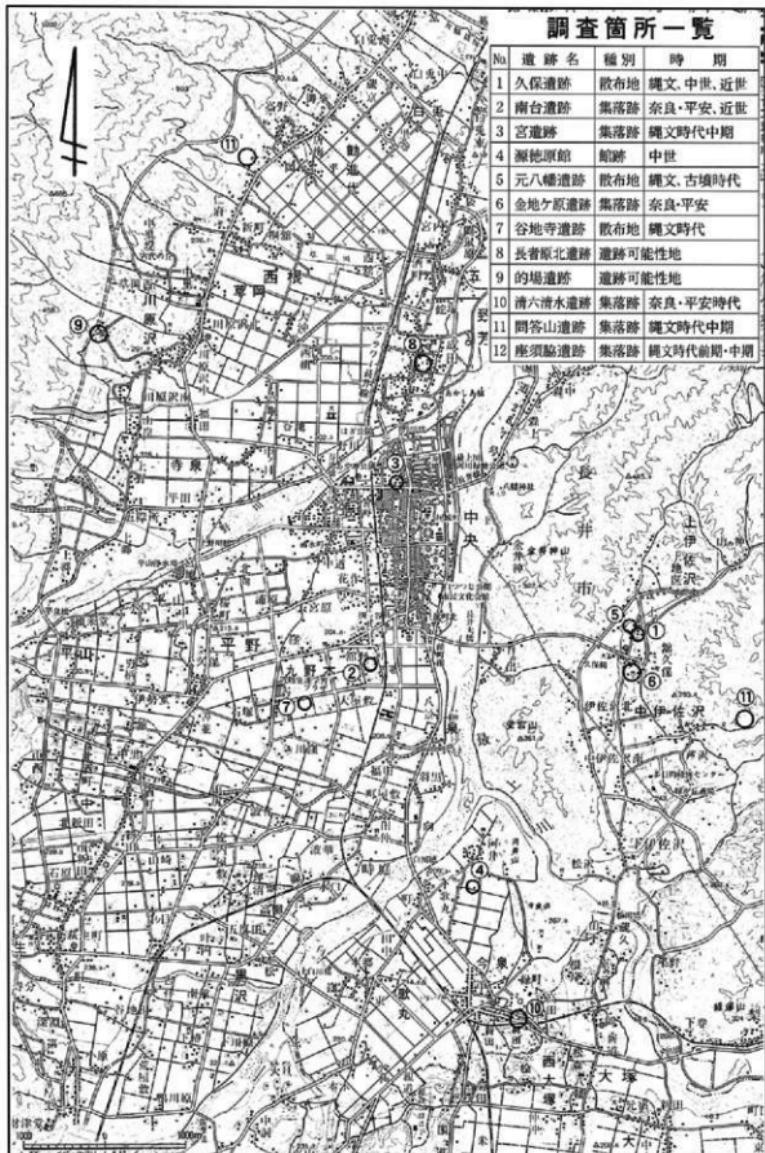
| 日程<br>内容 | 平成 16 年 |    |    |    |    |    |     |     |     |      | 平成 17 年 |    |  |
|----------|---------|----|----|----|----|----|-----|-----|-----|------|---------|----|--|
|          | 4月      | 5月 | 6月 | 7月 | 8月 | 9月 | 10月 | 11月 | 12月 | 1月   | 2月      | 3月 |  |
| 現地踏査     |         |    |    |    |    |    |     |     |     | ■    |         |    |  |
| 試掘調査     |         |    |    | ■  |    |    |     | ■   | ■   |      |         |    |  |
| 発掘調査     |         |    |    |    |    | ■  |     |     |     |      |         |    |  |
| 報告書作成    |         |    |    |    |    |    |     |     |     | ■■■■ |         |    |  |

## 埋蔵文化財ヒアリング一覧

| 事業種別        | 遺跡名    | 調査区分 | 種別     | 時期        | 備考   |
|-------------|--------|------|--------|-----------|------|
| 個人宅地造成に係る調査 | 久保遺跡   | 試掘調査 | 散布地    | 縄文、中世、近世  | 民間開発 |
|             | 南台遺跡   | 試掘調査 | 集落跡    | 奈良・平安、近世  | 民間開発 |
|             | 宮遺跡    | 試掘調査 | 集落跡    | 縄文時代中期    | 民間開発 |
| 私道造成に係る調査   | 源徳原館   | 試掘調査 | 館跡     | 中世        | 民間開発 |
| 駐車場造成に係る調査  | 元八幡遺跡  | 試掘調査 | 散布地    | 縄文、古墳時代   | 民間開発 |
|             | 金地ヶ原遺跡 | 試掘調査 | 集落跡    | 奈良・平安     | 民間開発 |
| 遺跡台帳整備に係る調査 | 谷地寺遺跡  | 現地踏査 | 散布地    | 縄文時代      | 新規発見 |
|             | 長者原北遺跡 | 試掘調査 | 遺跡可能性地 |           | 新規発見 |
|             | 的場遺跡   | 試掘調査 | 遺跡可能性地 |           |      |
|             | 清六清水遺跡 | 試掘調査 | 集落跡    | 奈良・平安時代   |      |
|             | 問答山遺跡  | 発掘調査 | 集落跡    | 縄文時代中期    |      |
|             | 座須脇遺跡  | 試掘調査 | 集落跡    | 縄文時代前期・中期 |      |

調査箇所一覧

| No. | 遺跡名    | 種別     | 時期        |
|-----|--------|--------|-----------|
| 1   | 久保遺跡   | 散布地    | 縄文、中世、近世  |
| 2   | 南台遺跡   | 集落跡    | 奈良、平安、近世  |
| 3   | 宮遺跡    | 集落跡    | 縄文時代中期    |
| 4   | 源徳原館   | 船跡     | 中世        |
| 5   | 元八幡遺跡  | 散布地    | 縄文、古墳時代   |
| 6   | 金地ヶ原遺跡 | 集落跡    | 奈良、平安     |
| 7   | 谷地寺遺跡  | 散布地    | 縄文時代      |
| 8   | 長者原北遺跡 | 遺跡可能性地 |           |
| 9   | 的場遺跡   | 遺跡可能性地 |           |
| 10  | 甫六清水遺跡 | 集落跡    | 奈良、平安時代   |
| 11  | 問答山遺跡  | 集落跡    | 縄文時代中期    |
| 12  | 座須脇遺跡  | 集落跡    | 縄文時代前期・中期 |



第1図 調査箇所位置図

## II 開発事業に係る調査

### 1. 久保遺跡

所在地 長井市上伊佐沢地内

調査期間 平成16年7月7日

起因事業 個人宅地造成

遺跡環境 長井市街地の南東部、逆川の河岸段丘上に位置し昭和63年の分布調査で発見された遺跡である。

本遺跡の南側から縄文時代晩期の玉抱き三叉文をもつ石版が出土している。

調査状況 開発予定区域に1×6mのトレンチを任意に2箇所設定し、重機を用いて地山層まで掘り下げ遺構・遺物の検出にあたった。

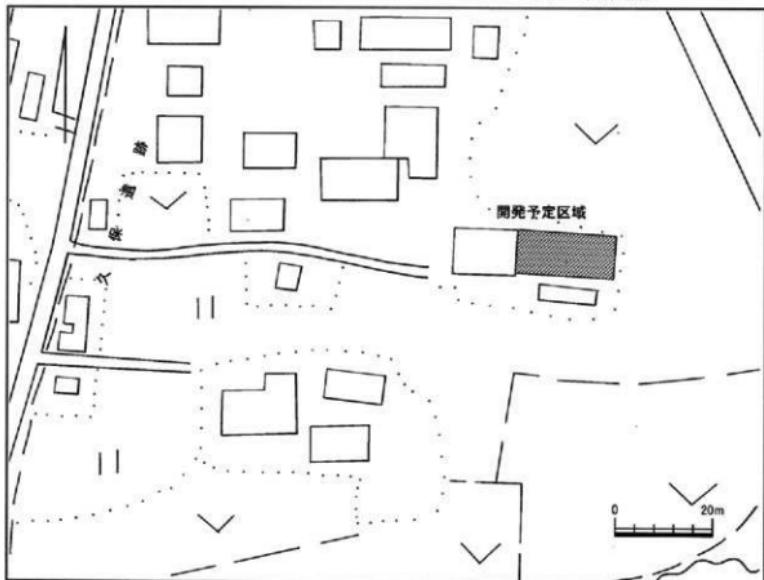
調査結果 地山層まで60~70cmの深さであったが耕作による擾乱も見られ、遺構・遺物は検出されなかった。本造成工事が遺跡におよぼす影響はきわめて少ないと思われる。



上：遺跡近景 下：1トレンチ



図版1 久保遺跡



第2図 久保遺跡概要図

## 2. 南台遺跡

所在 地 長井市上伊佐沢地内

調査期間 平成 16 年 11 月 15 日

起因事業 動物小屋造成

遺跡環境 長井市街地の南西部、最上川によって形成された河岸段丘上に位置する。平成 12 年に本遺跡の北西部において緊急発掘調査が行われ、掘立柱建物跡や溝跡、耕作痕等江戸初期の集落跡が検出されている。また、昭和 30 年代に出土したと言われる重焼きの状態の須恵器が伝えられており、窯跡の存在も予想される遺跡である。

調査状況 開発予定区域に  $1 \times 6$  m のトレンチを任意に設定し重機を用いて地山層まで堀下げ造構・遺物の検出にあたった。

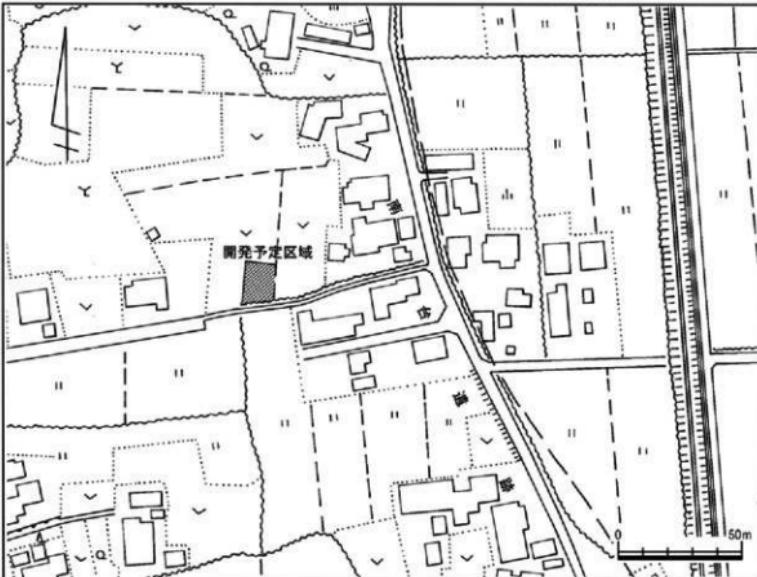
調査結果 地山層まで 60 ~ 70 cm の深さであったが造構・遺物は検出されなかった。本造成工事が遺跡におよぼす影響はきわめて少ないものと考えられる。



上：遺跡近景 下：1トレンチ



図版 2 南台遺跡



第 3 図 南台遺跡概要図

### 3. 宮遺跡

所在 地 長井市十日町地内

調査期間 平成 16 年 11 月 24 日

起因事業 個人宅地造成

遺跡環境 長井市街地の中央部、置賜支庁の北東部に位置する。最上川と置賜野川によって形成された河岸段丘上に営まれた縄文時代中期の遺跡で、現況は県道沿いに住宅や店舗が建ちならんだ市街地となっている。本遺跡は昭和 30 年代の県道改良工事、昭和 63 年の都市計画整備、および平成 14 年の個人宅地造成で緊急発掘調査を実施し、大木 7 b 式から大木 8 b 式期の遺物が大量に出土している。

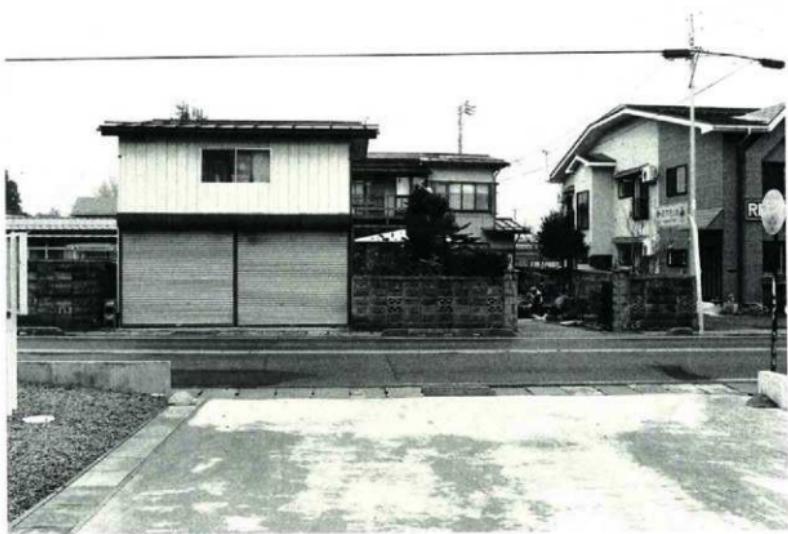
調査状況 現況は個人住宅で調査範囲も限られているため、開発予定区域の調査可能な場所に  $1.3 \times 3.5$  m のトレチ孔を 1 試所任意に設定し、手掘りで地山層まで掘下げ遺構・遺物の検出にあたった。

調査結果 限られた調査面積であったが多くの縄文土器をはじめ石器類も数多く出土した。遺物は灰褐色地山層を掘り込んだ黒褐色土から数多く出土し、炭化物を多く含み半円形のプランを呈することから遺構の可能性が高いと考えられる。また、過去の発掘調査から当該地区も遺跡の範囲に含まれるものと推定され、現在の県道舟場谷地橋線は置賜野川の自然堤防にあたることから、県道が走る高台に沿って縄文中期の大集落が存在するものと推測される。

これらのことから、工事の施工にあたり開発者側と十分な協議を行ったところ、開発工事に先駆けて記録保存を目的とした発掘調査を実施することとした。



第 4 図 宮遺跡概要図



遺跡近景（南より）



1 トレンチ



一括土器出土状況



土層断面

図版3 宮遺跡

## 遺物について

遺物は包含層から出土したもので、整理箱で1箱の量である。縄文中期前葉から中葉にかけての土器が主体を占め、須恵器や須恵器系陶器も一部見られる。石器は石錐1点、石匙1点、削器3点、範状石器2点、不定形石器1点、剥片が数点出土した。

### 土 器 第1群土器（第5図1～9、図版4）

粘土紐による隆帯や縄の側面圧痕および沈線で区画され、大木7b式に比定される土器を本群とする。

1は波状口縁の一部で、隆帯と沈線で区画文を構成し無節の斜縄文が施文され、隆帯には縄の先端部で刺突が施されている。2は口縁部に隆帯による小突起が付けられ、縦位の縄の圧痕が口縁を巡る。4・6は縄の圧痕が横位に巡り、小型で薄手の土器である。5は縦位に巡る縄の圧痕の下に平行沈線で区画文が施され、7は2条の平行沈線による区画文が斜位に施された土器である。8は浅鉢の口縁部で縦位の縄の圧痕が口縁を巡り、体部には縄の側面圧痕が施文される。9は縄の側面圧痕が施文された橋状取手をもつ土器である。

### 第2群土器（第5図13～18、図版4）

交差刺突文が巡り、隆帯・沈線で区画文を構成し、大木8a式に比定される土器を本群とする。

13～15は交差刺突文と沈線が巡り、13・14は外反ぎみに聞く体部上半の土器、16は細い隆帯が波状に貼付された土器である。17は平行沈線で曲線文が描かれ、18は隆帯と沈線で区画文が施された土器である。

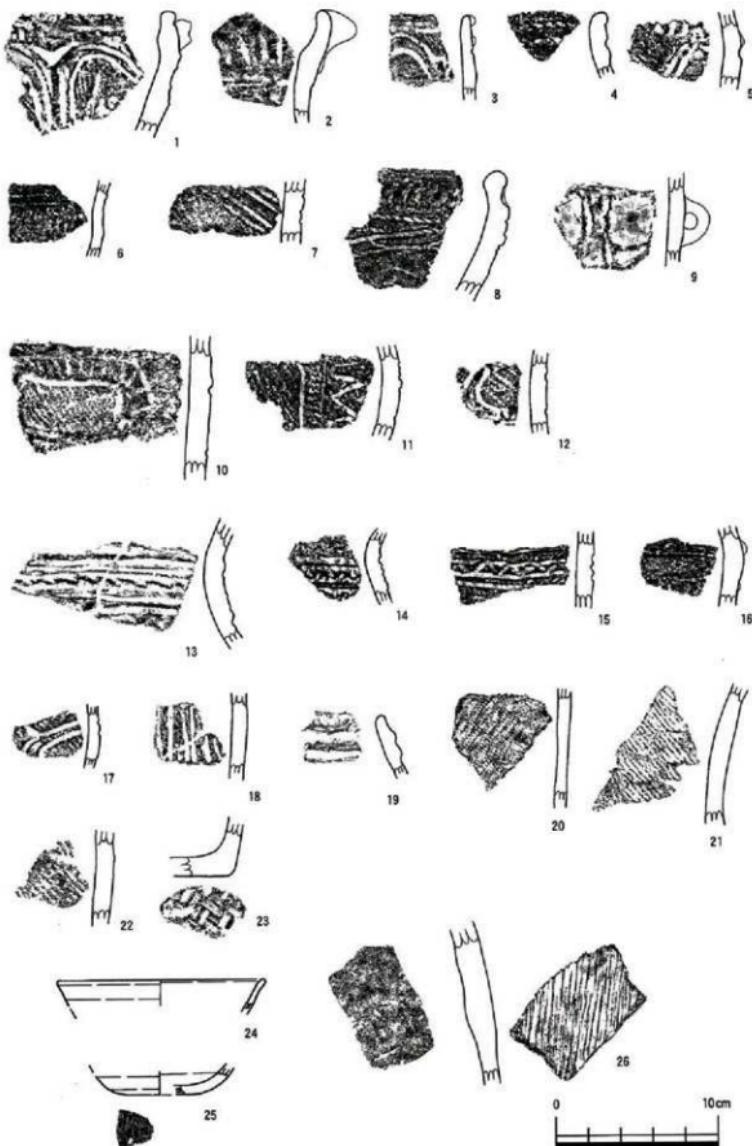
### 第3群土器（第5図10～12、19～23、図版4）

第1・2群土器に伴う土器を本群とする。10・11は隆帯と沈線で区画文を構成する土器で、隆帯には縄の側面圧痕が付く。19は口縁が内湾ぎみに立ち上がる小型の土器で口縁に2条の隆帯が巡る。20～22は胴部破片で単節・無節の斜縄文が施文され、22は網代痕のつく底部である。

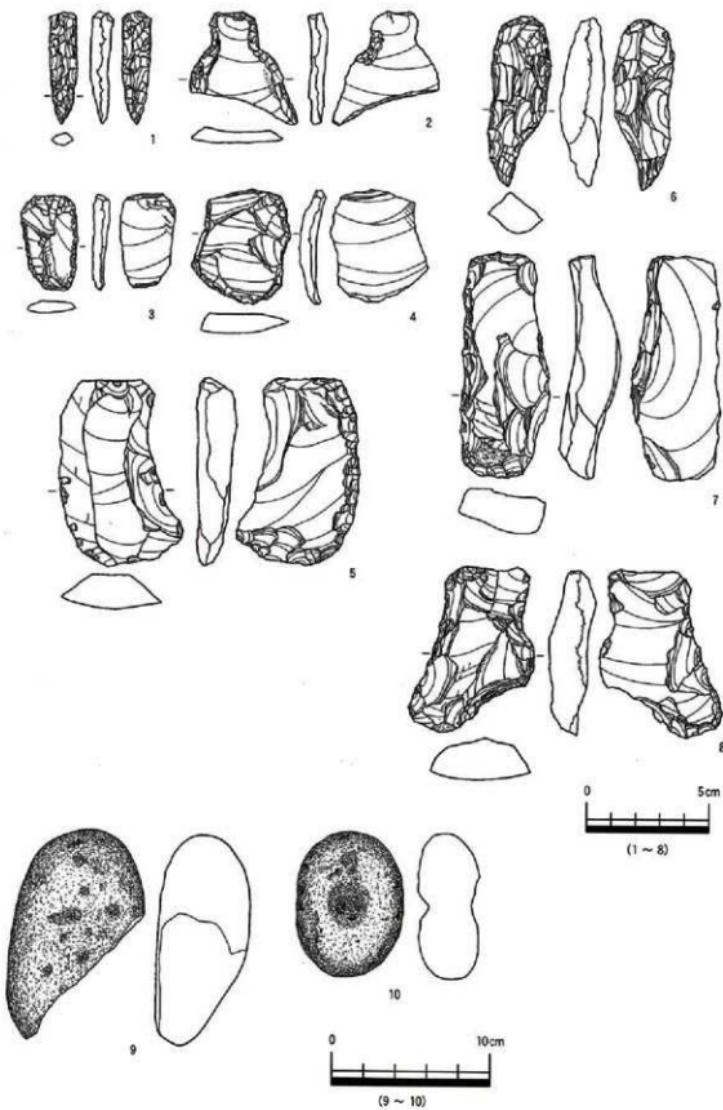
### 石 器（第6図1～10、図版5）

1は石錐で両側辺から器中央に向けて剥離が施され、背面中央部に素材の剥離面を残す以外は全面に剥離がおよんでいる。石質は頁岩で、長さは4.5cmである。2は石匙で先端部を欠損する。素材剥片の側辺に剥離を施しただけの素朴なつくりである。石質は頁岩で現存値4.6cmである。3～5は削器で石質は頁岩である。3は主要剥離面から背面に向けて細かい剥離が施され、両側辺に刃部が形成される。長さは3.9cmである。4は薄手の渋曲した剥片を素材とし、右側辺と先端部に刃部が作出されている。長さは4.7cmである。5は厚みのある縦長の剥片を素材とし、背面から主要剥離面に向けて剥離が施された石器である。刃部は部分的に摩滅し使用痕と考えられる光沢が認められ、長さは7.7cmである。6・7は範状石器である。6は先端部を欠損するが、表裏とも器中央部に向けて丁寧な剥離が施されている。現存値7.0cm。7は横長薄片を素材とし、器全周に粗い剥離を施した石器である。長さは9.1cmである。8は厚手の剥片に粗い剥離が施された石器である。石質は頁岩で長さは6.9cmである。9・10は凹石である。9は端部を欠損するが平坦な裏面に複数の浅い瘤みが認められる。10は縄の両面に深い瘤みをもつ石器である。長さは5.9cmである。

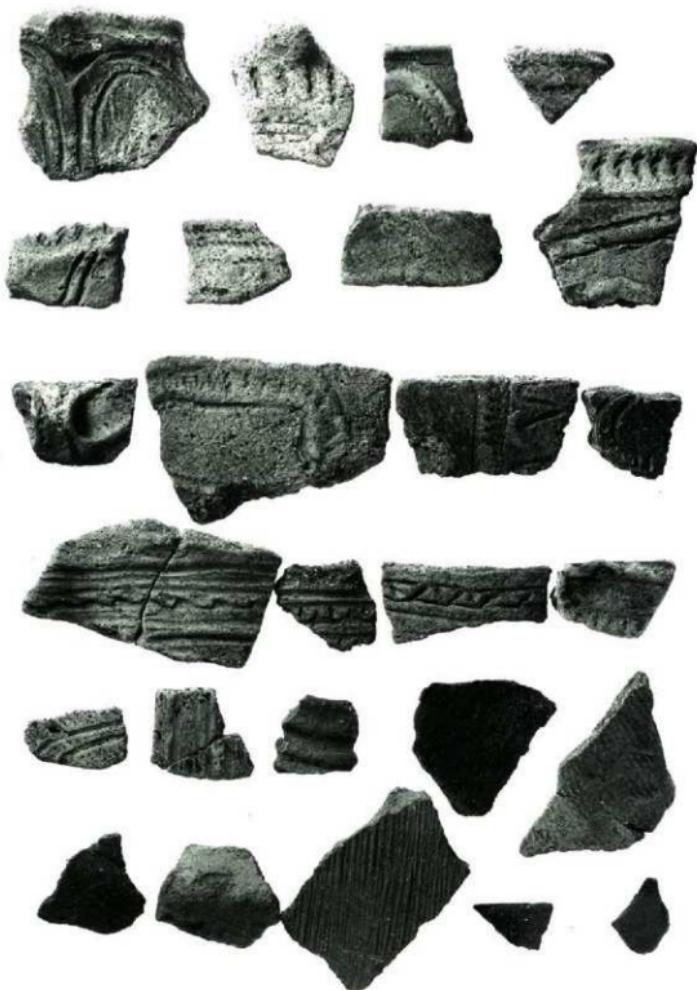
縄文時代の遺物の他にも須恵器、須恵器系陶器が出土している（第5図24～26）。24は須恵器で口縁単部がやや膨らみ外傾ぎみに立ち上がり、25は底径の小さな底部破片で回転糸切りの切り離し痕跡を残す。両者は器形の特徴から平安時代後期と推定される。26は須恵器系陶器の体部破片で、表面には叩きによる整形痕が、裏面には指による形成痕を残す。12～13世紀の所産と考えられる。



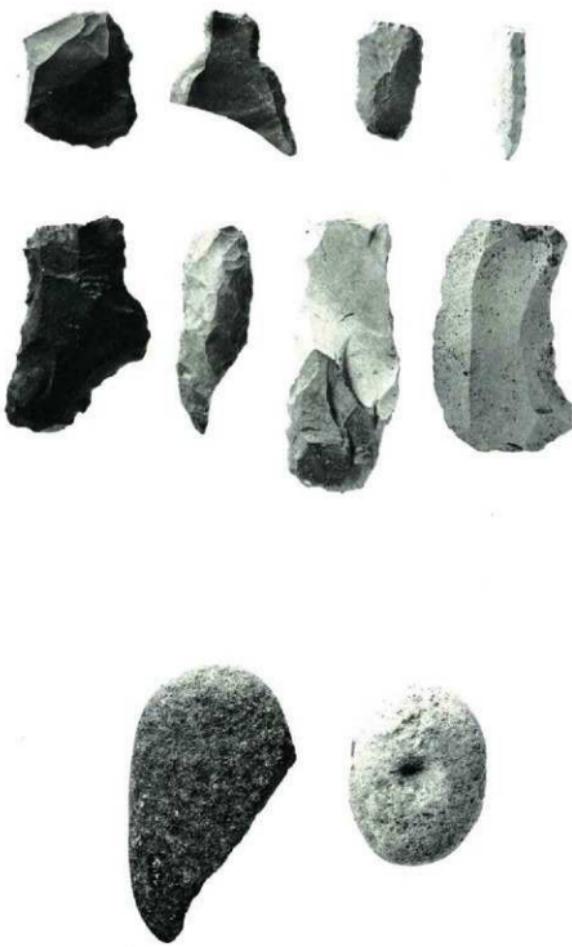
第5図 宮遺跡出土土器



第6図 宮遺跡出土石器



圖版4 宮遺跡出土土器



圖版 5 宮遺跡出土土器

げんとくばらたて  
4. 源徳原館

所 在 地 長井市河井地内

調査期間 平成 16 年 11 月 12 日

起因事業 私道造成工事

遺跡環境 長井市街地の南東部、最上川の河岸段丘上に位置し平成 3 年の分布調査で発見された遺跡である。本遺跡の北と南には高さ 4 m、幅 4 ~ 5 m の土壘と幅約 4 m の館堀が現在も残っている。本遺跡の北東約 1 km の地点には長さ 120 m にわたり丘陵の尾根沿いに堀切や帯曲輪をもつ戦国期の山城「茶臼館」がある。

調査状況 開発予定区域に 1 × 12 m のトレンチを任意に設定し、重機を用いて地山層まで堀下げ遺構・遺物の検出にあたった。

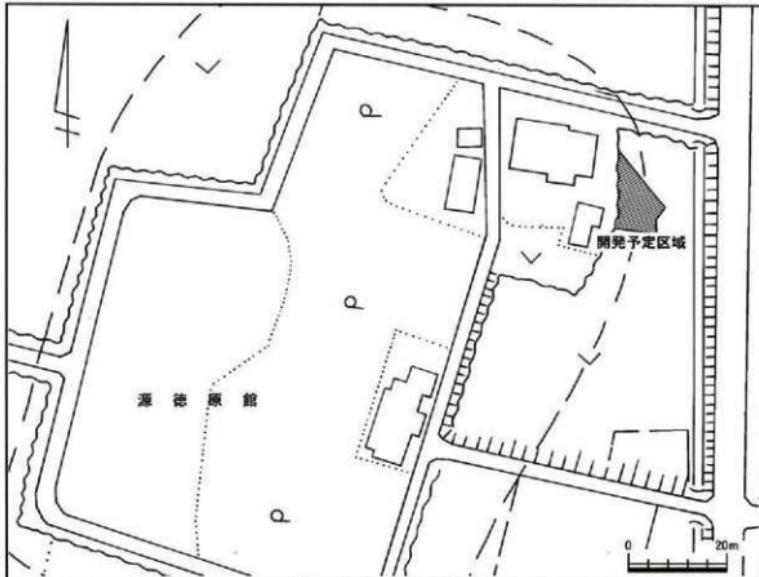
調査結果 地山層まで 40 ~ 50 cm の深さであったが耕作による擾乱も見られ、遺構・遺物は検出されなかった。本造成工事が遺跡におよぼす影響はきわめて少ないものと考えられる。



上：遺跡近景 下：1 トレンチ



図版 6 源徳原館



第 7 図 源徳原館概要図

もとはちまん

## 5. 元八幡遺跡

所在地 長井市上伊佐沢地内

調査期間 平成16年7月13日

起因事業 駐車場造成

遺跡環境 長井市街地の北東部、逆川によって形成された河岸段丘上に位置する。古くから土器や石器の出土が伝えられた遺跡で、周囲には伊達の家臣桑島将監の居館といわれる桑島館や同氏が開山したといわれる曹洞宗の古刹玉林寺があり、戦国時代に係わる伝説が数多く残っている。

調査状況 開発予定区域に1×10mのトレーナーを任意に2箇所設定し手掘りで地山層まで堀下げ造構・遺物の検出にあたった。

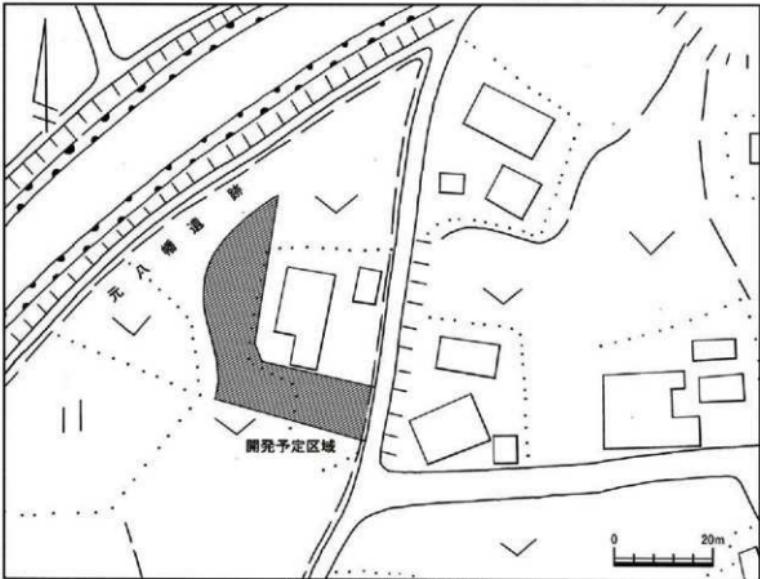
調査結果 地山層まで50~70cmの深さであったが耕作による擾乱も見られ造構・遺物は検出されなかった。本造成工事が遺跡におよぼす影響はきわめて少ないものと考えられる。



上：遺跡近景 下：2トレンチ



図版7 元八幡遺跡



第8図 元八幡遺跡概要図

かな も が はる  
6. 金地ヶ原遺跡

所 在 地 長井市上伊佐沢地内

調査期間 平成 16 年 10 月 19・20 日

起因事業 駐車場造成

遺跡環境 長井市街地の南東部、上伊佐沢地区に位置する。遺跡の西側には伊佐沢神社が隣接し、北西約 300 m 地点には国の指定天然記念物「伊佐沢の久保ザクラ」がある。遺跡周辺は逆川によって形成された河岸段丘がほぼ南北に走り高台の地形を呈し、古くから土器や石器が出土している。本遺跡は昭和 63 年の分布調査で発見されたもので縄文時代の土器や石器が採集されている。

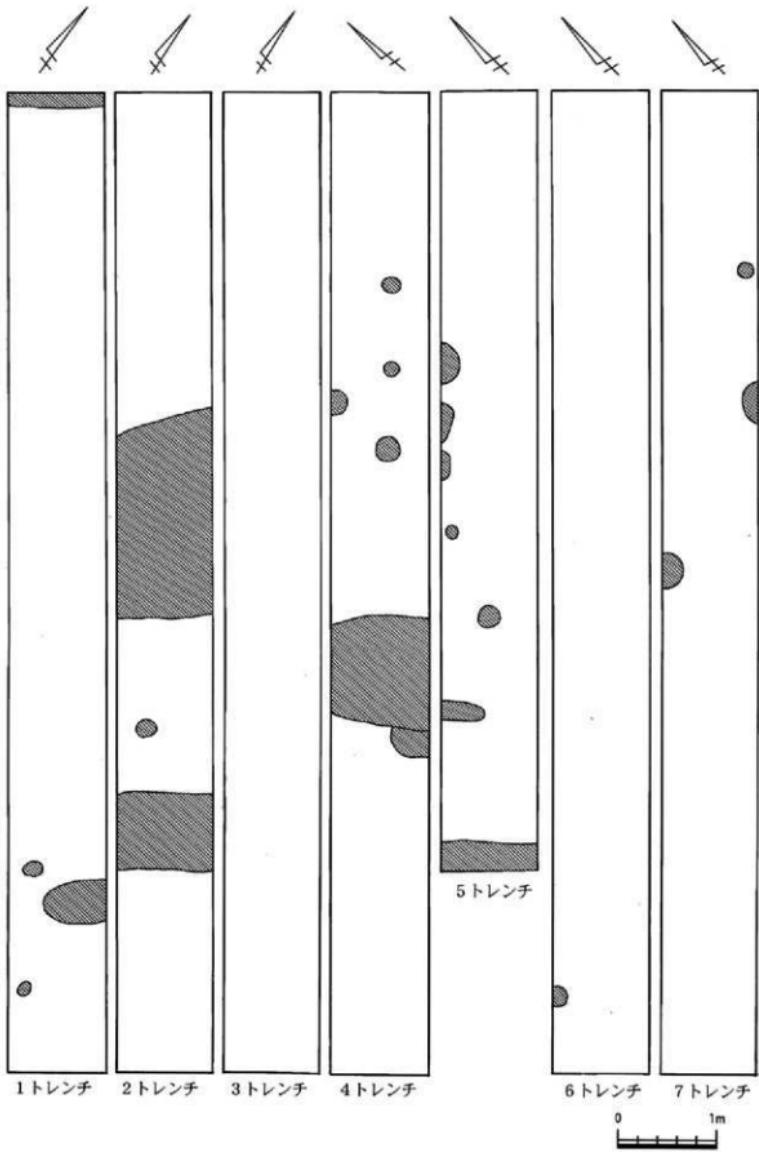
調査状況 開発予定区域に  $1 \times 10$  m のトレンチを 6 箇所、 $1 \times 8$  m のトレンチを 1 箇所それぞれ任意に設定し、重機を用いて地山層まで掘下げ遺構・遺物の検出にあたった。

調査結果 3 トレンチは搅乱が著しく遺構は未検出であるが、各トレンチでピットや溝状遺構が検出された。特に 2 トレンチでは 2 条の溝状遺構が検出され、4・5 トレンチではピットが列をなして検出された。しかし、3・5・6・7 トレンチでは耕作土下位の 2 層において多量の褐色地山層がブロック状に混入していることから、地山層にまで達するような深い耕作がおよんだものと推測される。

これらのことから、開発予定区域の西側において若干の遺構が確認されたものの大半は耕作により搅乱を受けており遺跡の遺存状態は不良と判断される。したがって本開発工事が遺跡におよぼす影響はきわめて少ないものと考えられる。



第 9 図 金地ヶ原遺跡概要図



第10図 金地ヶ原遺跡トレンチ概要図



遺跡近景



1 トレンチ



2 トレンチ



3 トレンチ



4 トレンチ



5 トレンチ



6 トレンチ



7 トレンチ

図版8 金地ヶ原遺跡

### III 遺跡台帳整備に係る調査

#### 7. 谷地寺遺跡

所在地 長井市九野本地内

調査期間 平成16年12月14日

起因事業 遺跡台帳整備

遺跡環境 長井市街地の南西部、九野本地地区で発見された遺跡である。近隣には置賜生涯学習プラザをはじめ新たに進出した企業が建ちならんでいる。一帯は水田地帯のため未踏査地域であるが、昭和40～50年代に行われた土地改良事業において土器や石器の出土が伝えられ、登之越遺跡や谷地中遺跡といった縄文時代後・晩期の遺跡が周知されているにすぎない。そのため本遺跡の発見は関係機関から寄せられた情報がきっかけで確認されたものである。

調査状況 寄せられた情報をもとに周辺一帯をくまなく踏査し、遺物の採集にあたった。

調査結果 昨年開業した「セレモニーホールこだま」

の南側に隣接する水田で縄文土器や石器、それに若干の須恵器を探集した。遺物は水路に沿って線的に散布が見られたため水路設置の深掘りで地表面に現れたものであろう。平野部における縄文時代の遺跡として貴重な存在である。



図版9 谷地寺遺跡



第11図 谷地寺遺跡概要図



縄文土器他



石器類

図版10 谷地寺遺跡採集遺物

## 8. 的場遺跡

所在地 長井市成田地内

調査期間 平成 16 年 11 月 16 ~ 18 日

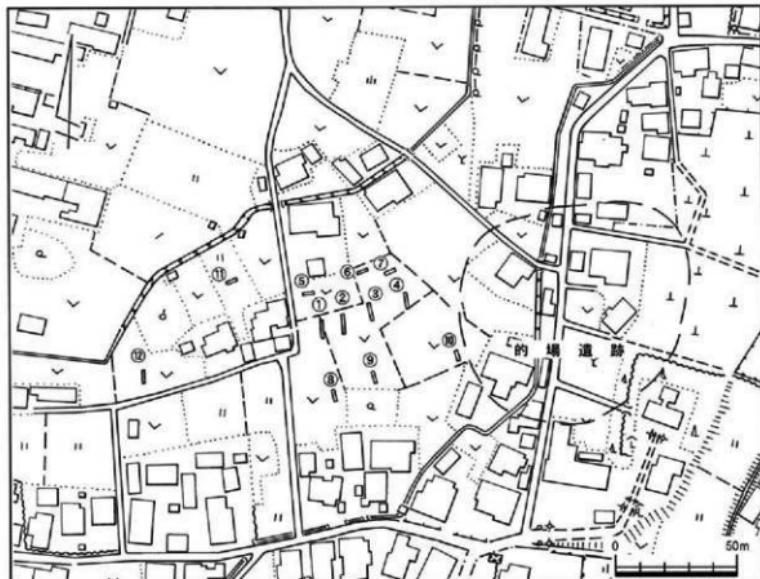
起因事業 遺跡台帳整備

遺跡環境 長井市街地の北東部、成田地区に位置する遺跡で平成 7 年の分布調査で発見された。一帯は最上川によって形成された河岸段丘で、畑地のなかに閑静な住宅街が広がり近年急速に宅地化が進んでいる地域でもある。遺跡東側には八幡神社が奉られ、そこを南北に伸びる道路が旧道で現在の県道が整備される以前は旧成田村の中心地であったという。また、遺跡の西側には旧佐々木家の屋敷があり、クリの大木が当時の繁栄振りをしのばせている。

調査状況 調査予定区域に  $1 \times 8$  m のトレンチを 4 箇所、 $1 \times 5$  m のトレンチを 8 箇所それぞれ任意に設定し、手掘りで地山層まで掘下げ遺構・遺物の検出にあたった。

調査結果 いずれのトレンチも地山層までの深さが 60 ~ 70 cm、深いところでは 90 cm にも達するが遺物は検出されなかった。9 トレンチで幅約 3 m の礎を含む落ち込みを、11 トレンチで北東 - 南西方向に溝跡が、12 トレンチでは南端に深い落ち込みを検出したが、単発的で遺物も出土していない。また、試掘と平行して表面踏査を行ったが遺物は採集されなかった。

これらのことから、的場遺跡の範囲について当該調査区を除外し、東側の八幡神社周辺を遺跡範囲として周知することとした。



第 12 図 的場遺跡概要図



遺跡近景（東から）



遺跡近景（北西から）



9 トレンチ



11 トレンチ



12 トレンチ

図版 11 的場遺跡

ちょうじやはらきた  
9. 長者原北遺跡

所 在 地 長井市川原沢地内

調査期間 平成 16 年 11 月 8・9 日

起因事業 遺跡台帳整備

遺跡環境 長井市街地の北東部、川原沢地区に位置する。一帯は朝日山系の裾野にあたり、南には白山森館があり山頂部に「L」字型の空堀が巡りその内側に方形の平場が山頂に向かって段々畠状に構築され、現在でも戦国時代の山館の様子を見ることができる。本調査区の南側において土器の出土が伝えられている。終戦後の開墾の折に攤文土器が数多く出土し、それらが現在でも置賜地方の資料館に保管されているという。また、当該区域において礫のまとまりが検出されたとの情報から試掘調査を実施した。

調査状況 調査予定区域に  $1 \times 5\text{m}$ 、 $1 \times 10\text{m}$ 、 $1 \times 20\text{m}$  のトレーニチをそれぞれ 1 箇所ずつ任意に設定し、手掘りで地山層まで掘下げ遺構・遺物の検出にあたった。また、遺構の係わりからトレーニチを一部拡張して掘さげを行った。

調査結果 2・3 トレーニチで礫がまとまった状態で検出された。2 トレーニチでは人頭大の礫が直径 1m の範囲から密集して検出され、3 トレーニチでも地山層を掘り込んで拳大の礫が密集して検出された。両トレーニチとも遺物が未検出であるため遺構の性格や時期の特定には至っていないが、地山層を掘り込んで埋められた礫を集石遺構と判断した。

これらのことから、当該調査区を遺跡可能性地としてとらえ周知することとした。



第 13 図 長者原北遺跡概要図



遺跡近景（北東から）



2 トレンチ



集 石



3 トレンチ



集 石

図版 12 長者原北遺跡

せいろくしみず  
10. 清六清水遺跡

所在地 長井市今泉地内

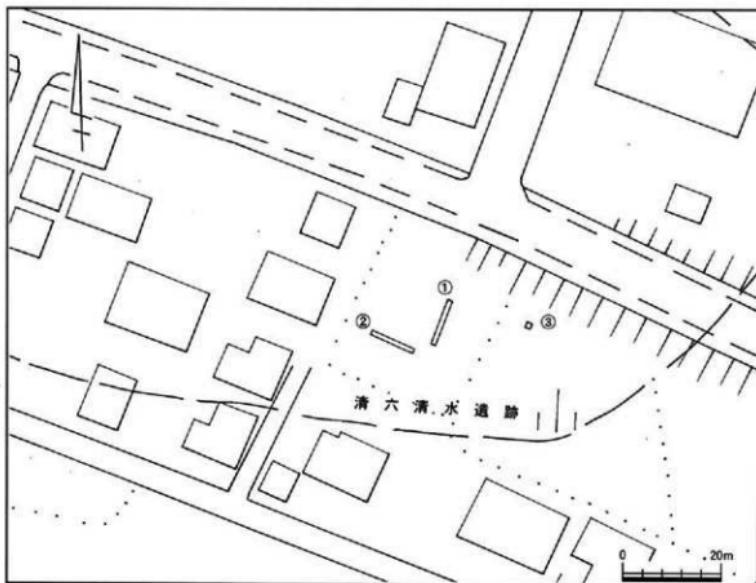
調査期間 平成 16 年 12 月 1 日

起因事業 遺跡台帳整備

遺跡環境 長井市街地の南東部、最上川と白川の合流地点の南約 3km に位置する。出羽丘陵から南に張り出した小高い丘陵の西側には加賀塚、今泉金山、蛇崩遺跡からなる今泉窯跡群がある。本遺跡は平成 3 年の分布調査で発見され、平成 9 年に試掘調査、12 年に発掘調査が行われ掘立柱建物跡や井戸跡、須恵器が出土し平安時代の集落跡として周知されている。また、当地方は良質の粘土に恵まれ現在でも陶芸や窯業が営まれている。

調査状況 現况は国道、工場、宅地となっており限られた範囲の調査であったが、丘陵の南東斜面に 1 × 10m のトレンチを 2 箇所、それぞれ任意に設定し手掘りで地山層まで掘下げ遺構・遺物の検出にあたった。また、井戸跡と伝えられる箇所も坪掘りを行った。

調査結果 1 トレントから須恵器、土師器が出土したが、両トレントとも地山層までの深さが 15 ~ 30cm と比較的浅い。また、遺構・遺物の検出数が少ないので本調査区が丘陵南端部の斜面にあたるため、集落の中心は現在の国道 113 号線およびその両側と考えられ、平成 12 年の調査で検出された掘立柱建物跡周辺が遺跡の北東端にあたると推測される。さらに、湧水地と伝えられる箇所を坪掘りしたところ木組みが検出され、井戸跡と推定される。したがって本遺跡は出土遺物から 8 世紀代の集落跡と考えられる。



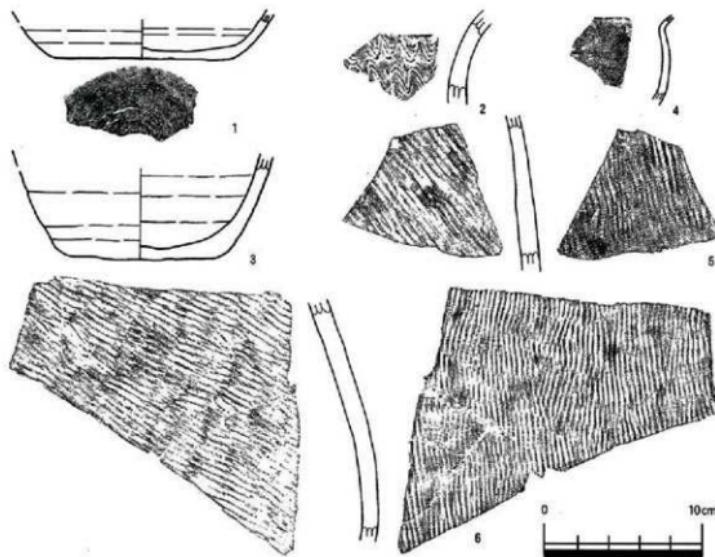
第 14 図 清六清水遺跡概要図

### 遺物について

2・4は採集資料で、他は1トレンチから出土した。(第15図1~6、図版14)

1は赤焼き土器の壺で底部に回転ヘラ切りの切り離し痕を残し、内側は黒色処理が施されている。2は須恵器の壺で頭部に櫛状工具による波状文が横位に施される。3は土師器の長胴壺底部で器底には粘土紐の積み重ね痕跡を残す。4は土師器長削壺で口縁が「く」の字状を呈し、削毛痕が見られる。5・6は須恵器の壺で内外面とともに叩き痕が認められ、両者とも大型の壺と推測される。

以上のように限られた資料内容ではあるが、過去に行った調査資料などを含めると壺の底部は回転ヘラ切りの切り離し痕を残し径が大きく広い。また、採集資料ではあるが波状沈線をもつ壺の頭部も加えると、本遺跡は8世紀代の集落と考えられる。



第15図 清六清水遺跡出土遺物



遺跡近景



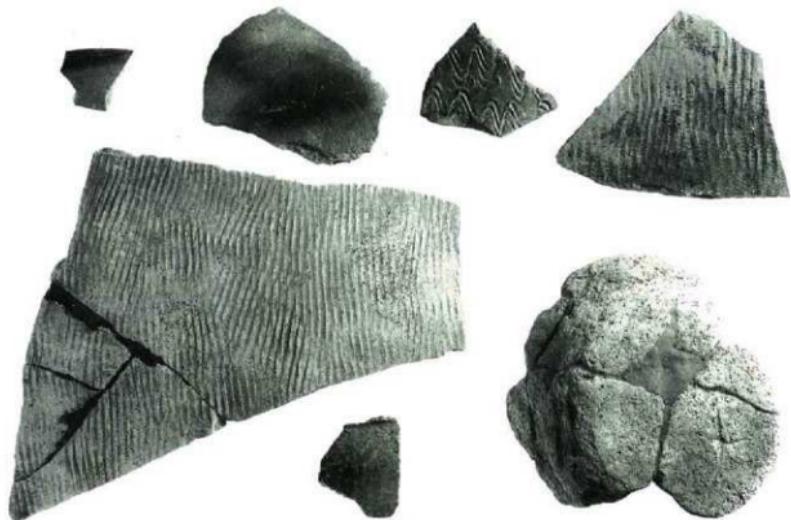
1 レンチ



2 レンチ



井戸跡



図版 13 清六清水遺跡

## 11. もんごくやさ 問答山遺跡

所 在 地 長井市勘進代地内

調査期間 平成 16 年 9 月 29 日～10 月 7 日

起因事業 遺跡台帳整備

遺跡環境 長井市街地の北西部、朝日山系の裾野に位置し、南側 2 km には縄文中期の半截木柱列跡が検出された長者屋敷遺跡、南隣りには戦国期の戸根林館がある。本遺跡は平成 13 年に発見され情報量の多い遺跡であるため、平成 15・16 年に発掘調査を実施し住居跡・土坑・集石・環状列石・埋設土器・溝跡・耕作痕などを検出、縄文時代中期を主体に中世・近世の複合遺跡と判明した。とりわけ平成 16 年の調査で環状列石の一部が検出され、調査区の西側まで伸びる様相を呈していたため、その範囲を確認する目的から試掘調査を実施したものである。

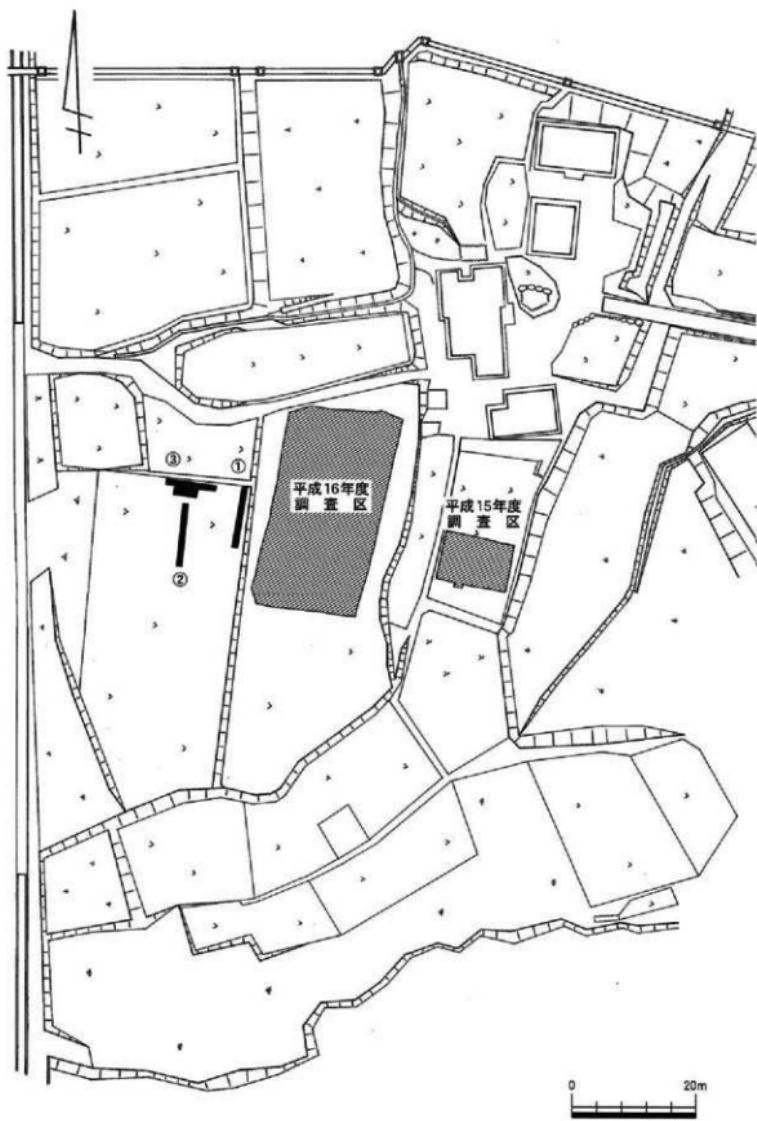
調査状況 環状列石の連なりを想定し  $1 \times 10$  m のトレンチを 2 箇所、 $1 \times 8$  m のトレンチを 1 箇所任意に設定し、重機を用いて地山層まで掘り下げ造構・遺物の検出にあたった。また、造構検出の目的から 3 トレンチを一部拡張して掘り下げを行った。

調査結果 1 トレンチでビットと大型土坑のプランを、3 トレンチで円形・楕円形のプランを検出した。3 トレンチにおいて造構上面には拳大の礫がやまとまった状態で検出され、環状列石と比較すると礫の密度は薄いが土坑と礫がセットで出土した点では両者に共通点を見出すことができよう。しかし、環状列石の規模や当該期の集落構造を明確にするにはより広範囲におよぶ発掘調査が必要である。

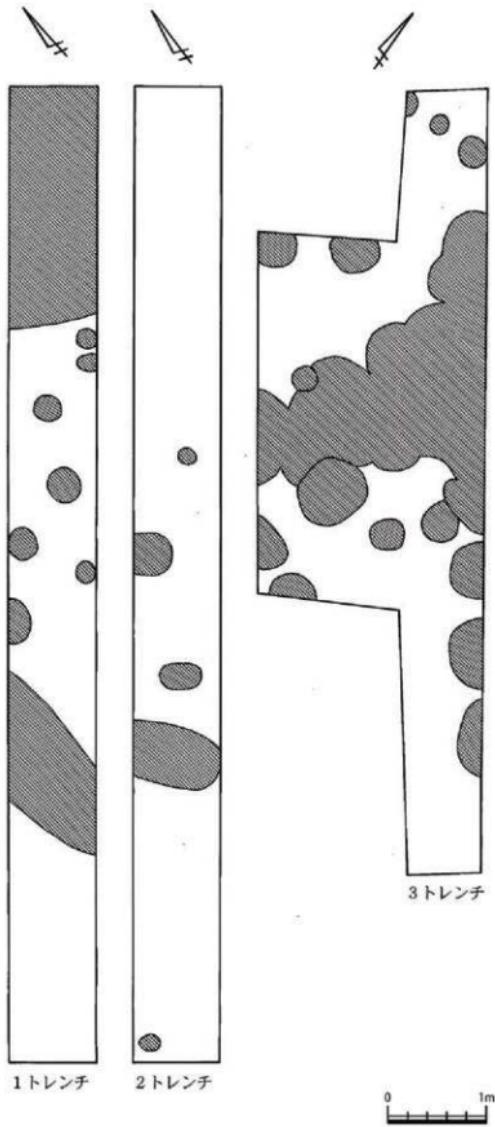


遺跡近景

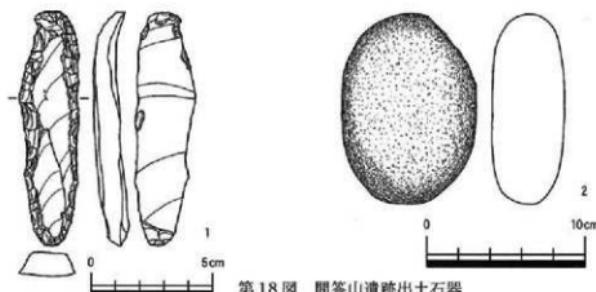
図版 14 問答山遺跡 (1)



第16図 間答山遺跡調査概要図



第17図 問答山遺跡トレンチ概要図



第18図 問答山遺跡出土石器



1 レンチ



2 レンチ



3 レンチ

岡版15 問答山遺跡 (2)



出土石器

## 12. 座須脇遺跡

所在地 長井市芦沢地内

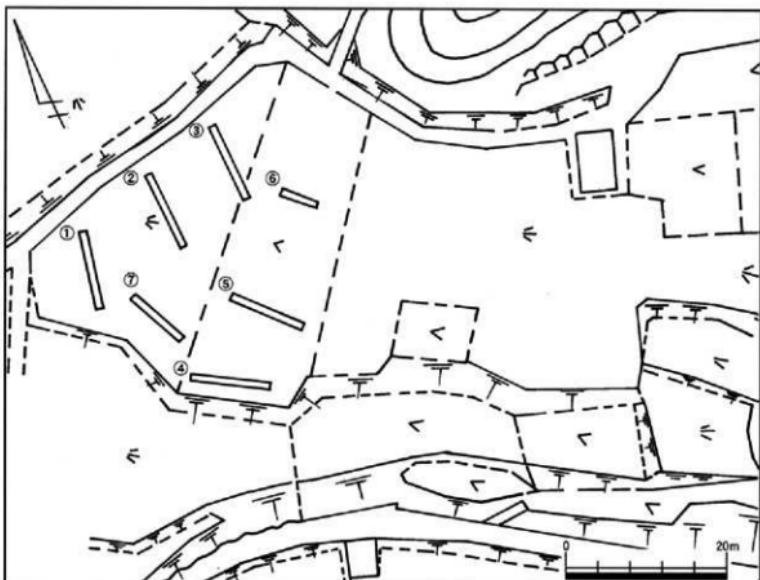
調査期間 平成16年12月2日～4日

起因事業 遺跡台帳整備

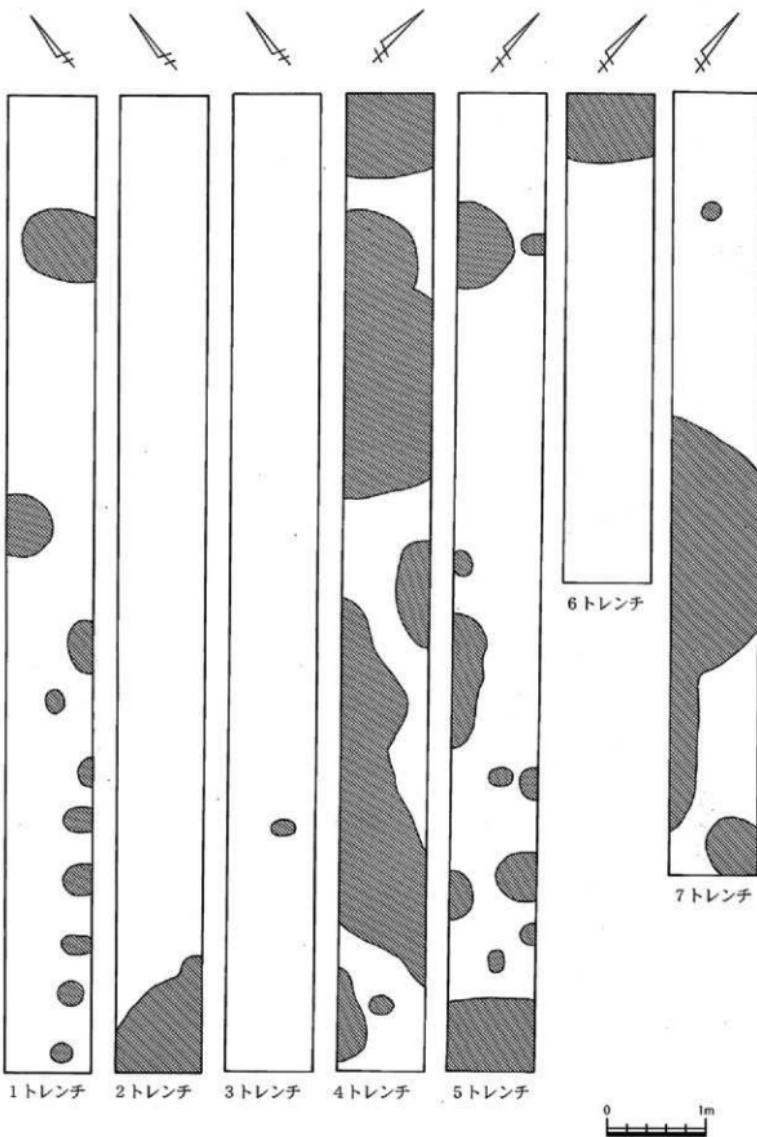
遺跡環境 長井市街地の南東部、芦沢地区に位置する。集落から東へ400m入った河岸段丘上に営まれた遺跡で、周囲を小高い山に囲まれ北には戦国期の御林館、遺跡の南側を逆川支流の小河川が流れ標高260mを測る。東から西へ伸びた丘陵には2～3段の段丘面が形成され、現況は畠地、果樹園となっている。本遺跡は昭和62年の分布調査で発見されたもので、平成5年に試掘調査が行われ縄文前期前葉と中期後葉の土器が出土している。

調査状況 遺跡範囲の北部に1×10mのトレンチを5箇所、1×8mおよび1×5mのトレンチを各1箇所任意に設定し、重機を用いて地山層まで掘り下げ遺構・遺物の検出にあたった。

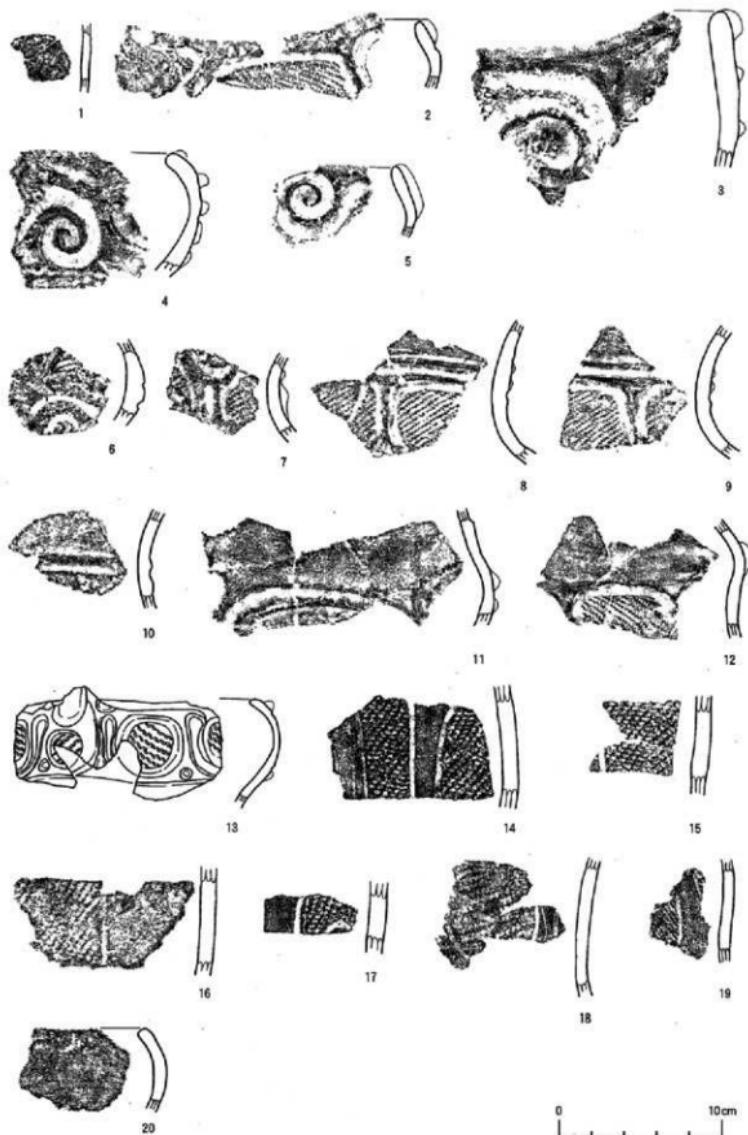
調査結果 遺物の出土は少ないが各トレンチでピットや土坑など多くの遺構が検出され、調査区全域が集落の範囲に含まれるものと推測さよう。また、地山層までの土層堆積が山側で70～90cm、谷側で40～50cmと全体的に厚く、開墾などによる擾乱も少なく遺跡の遺存状況は良好と考えられる。出土遺物を見るとこのたびの遺物は縄文中期の土器がほとんどである。前回の調査において縄文前期の土器が大半を占めていたことを重ね合わせると、限られた範囲に前・中期の遺構が重複関係にあると予測される。いずれにしても縄文時代前期前半と中期後葉の集落跡として貴重な遺跡である。



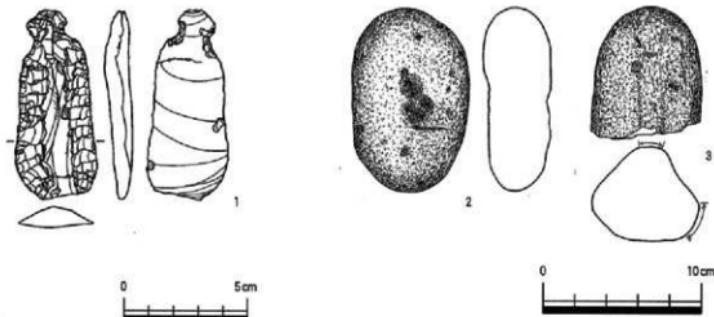
第19図 座須脇遺跡概要図



第20図 库須脇遺跡トレンチ概要図



第21図 座須脇遺跡出土器



第22図 座須脇遺跡出土石器

#### 遺物について

遺物は4~7トレンチから出土し整理箱1箱を数える。縄文時代中期後半の土器がほとんどで縄文前期の土器が若干出土している。石器は石匙1点、凹石1点、磨石1点が出土した。

#### 土 器

##### 第1群土器（第21図1、図版19）

1は体部破片で摩滅が著しく文様の識別は困難であるが、器壁に纖維度が認められる土器である。平成5年の調査では大木1~2式土器が数多く出土しており、本資料も当該時期の土器と推定される。

##### 第2群土器（第21図2~12、図版19）

口縁から体部にかけて隆帯による渦巻文を展開させ、隆帯と沈線で区画文を構成し、大木8b式に比定される土器を本群とする。

2~5は内湾する深鉢の口縁で隆帯の渦巻文が展開する。3は波状を呈する口縁である。6・7は隆帯と沈線の渦巻文が垂下する。8~12は口縁から胴部にかけて無文帯が形成され、胴部に隆帯と沈線で方形や橢円形の区画文が構成され斜綱文が充填される土器で、8~10は口縁が外反し11・12は内湾する深鉢である。

##### 第2群土器（第21図13~19、図版19）

隆帯や沈線で区画文を構成し多くは絶長の区画文が施され縄文を充填し、大木9式に比定される土器を本群とする。13は口縁が内湾し頸部に無文帯が形成され、隆帯と沈線で橢円文が構成される。区画内には複節縄文が施文される。14~18は深鉢の胴部で絶長の橢円文が施され、区画内には複節縄文が施文される。19も同様の文様構成をとるが単節縄文が充填される土器である。

##### 第3群土器（第21図20、図版19）

1・2群土器に伴うものを本群とする。20は内湾する無文帯の口縁を構成する深鉢である。

#### 石 器（第22図1~3、図版20）

1は石匙で縦長剥片を素材とし、器長軸に直行するように両側刃から剥離が加えられた石器である。石質は頁岩で長さは7.8cmである。2は凹石で礫の両面に複数の浅い窪みをもつ。石質は花崗岩で長さは11.2cmである。3は断面が三角形を呈する磨石で標の稜の部分が磨られている。石質は花崗岩で現存値は7.9cm。



遺跡近景



1 レンチ



1 レンチ土層断面



2 レンチ



2 レンチ土層断面

図版 16 座須脇遺跡 (1)



3 レンチ



3 レンチ土層断面



4 レンチ



5 レンチ



5 レンチ土層断面



6 レンチ

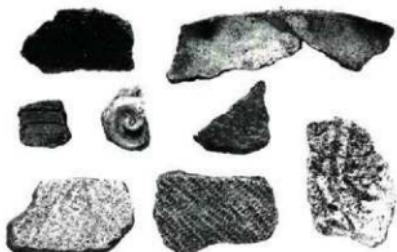


7 レンチ

図版 17 座須脇遺跡 (2)



圖版 18 座須賾遺跡出土土器



繩文土器



石匙



凹石



磨石

# 報 告 書 抄 錄

| ふりがな         | しないいせきはくつちょうさほうこくしょ                                |        |       |                   |                    |                          |                  |            |
|--------------|--|--------|-------|-------------------|--------------------|--------------------------|------------------|------------|
| 書名           | 市内遺跡発掘調査報告書  |        |       |                   |                    |                          |                  |            |
| 副書名          | 宮遺跡の調査、問答山遺跡の調査、座須脇遺跡の調査 他                         |        |       |                   |                    |                          |                  |            |
| 巻次           | 13   |        |       |                   |                    |                          |                  |            |
| シリーズ名        | 山形県長井市埋蔵文化財調査報告書                                   |        |       |                   |                    |                          |                  |            |
| シリーズ番号       | 第25集   |        |       |                   |                    |                          |                  |            |
| 編著者          | 岩崎義信   |        |       |                   |                    |                          |                  |            |
| 編集機関         | 長井市教育委員会   |        |       |                   |                    |                          |                  |            |
| 所在地          | 〒993-8601 山形県長井市ままの上5番1号 TEL 0238-84-2111          |        |       |                   |                    |                          |                  |            |
| 発行年月日        | 西暦2005年3月31日                                       |        |       |                   |                    |                          |                  |            |
| 所収遺跡名        | 所在地  | コード    |       | 北緯                | 東経                 | 調査期間                     | 調査面積             | 調査要因       |
|              |  | 市町村    | 遺跡番   |                   |                    |                          |                  |            |
| みや宮          | やまがたけんながいし<br>山形県長井市<br>とおかまち<br>十日町               | 6209   | 1     | 38度<br>06分<br>35秒 | 140度<br>02分<br>21秒 | 2004.11.24               | 5m <sup>2</sup>  | 個人宅地<br>造成 |
| もんどう山<br>問答山 | やまがたけんながいし<br>山形県長井市<br>のんじんじんあざくさおかざかい<br>勧進代字草岡境 | 6209   | 67    | 38度<br>08分<br>49秒 | 140度<br>01分<br>08秒 | 2004.11.24<br>2004.10.07 | 34m <sup>2</sup> | 遺跡台帳<br>整備 |
| ざすのわき<br>座須脇 | やまがたけんながいし<br>山形県長井市<br>なりたあざとうのした<br>成田字塔ノ下       | 6209   | 187   | 38度<br>05分<br>04秒 | 140度<br>04分<br>18秒 | 2004.12.02<br>2004.12.04 | 63m <sup>2</sup> | 遺跡台帳<br>整備 |
| 所収遺跡名        | 種別   | 主な時代   | 主な遺構  | 主な遺物              |                    | 特記事項                     |                  |            |
| 宮            | 集落跡  | 縄文時代中期 | 土坑    | 縄文土器、石錐<br>石籠、削器  |                    |                          |                  |            |
| 問答山          | 集落跡  | 縄文時代中期 | 土坑、集石 | 搔器、磨石             |                    |                          |                  |            |
| 座須脇          | 集落跡  | 縄文時代中期 | 土坑、柱穴 | 縄文土器、石匙<br>磨石     |                    |                          |                  |            |

---

**長井市埋蔵文化財調査報告書 第25集  
市内遺跡発掘調査報告書(13)**

平成17年3月31日 発行

発行 長井市教育委員会

山形県長井市まほの上5番1号

TEL (0238) 84-2111

印刷 (南)ミキブロセス

---